



協 自 主
調 律 主

次代を担う若人

筑 西

久留米市立筑邦西中学校
学校だより 4-13号
令和4年9月16日
文責 校長 古賀 一英

市内新人陸上大会から新人大会がスタート！！

9月14日（水）久留米総合スポーツセンター陸上競技場において、市内新人陸上大会が開催されました。たいへん暑い中でしたが、陸上部の選手たちは、一生懸命に自分の力を発揮しようと頑張っている姿がありました。市内大会を突破し、地区大会（9/28）に進出した生徒を紹介します。

○女子1年800m	2位	江口 柚那（1-3）
○女子1500m	2位	藤本 茉優（2-1）
○女子走高跳	4位	園田 蓮生（2-3）

この陸上大会をかわきりに、中体連新人大会がスタートします。会場等については、今後改めてお知らせをする予定です。また、現在、福岡県のコロナ特別警報も警報に下げられ、感染症の拡大もようやくおさまってきていますが、本大会においても1学期に実施しました夏季大会同様に各競技で会場に応じた観戦方法についてご協力をお願いすることとなります。2学期は、文化発表会、2学年修学旅行、3年生の進路獲得に向けた行事などを計画しています。今後とも感染対策にご協力をよろしくお願い致します。

大学生がインターンシップを本校で体験

8月29日から久留米工業大学（9月5日まで）と久留米大学（9月9日まで）より、インターンシップとして大学生が5名、本校で実習を行いました。インターンシップは、大学の心理や教育に関する学びを職業選択にいかすことができるようにすることを目的としており、主に2年生の教室と理科の授業で生徒への学習支援を中心に実習を行いました。生徒たちにたくさん声掛けしてサポートをしていただきました。インターンシップ生の姿は、生徒たちにとっては、約5年後のロールモデルであり、自分の将来について考える機会になったのではないかと思います。インターンシップ生からの感想と生徒のみなさんへのメッセージを紹介します。

【久留米工業大学2年 笹浦泰晟】

インターンシップ生として筑邦西中学校にお世話になりました。沢山の生徒の皆さんが話しかけてくれたり、すれ違った時に挨拶してくれたりとても感謝しています。一週間しかなく、見に行くことが出来たクラスも出来なかったクラスもありましたが、どのクラスも賑やかで雰囲気が良かったです。突然ですが皆さんには将来の夢はありますか？私には中学校の数学の先生になる夢が中学生の時からあります。皆さんにも早い時期から夢を持ってほしいです。自分が得意なこと、興味があること、やってみたいこと、1つでも沢山でも構いません。進む道は数えられないほど沢山あります。可能性は無限大です。夢があればその夢に向かって頑張ることが出来ます。生徒の皆さんはこれからも自分の進みたい道に向かって歩み続けてください。先生方もずっと支えてくれます。またどこかで会える日を楽しみにしています。一週間という短い間でしたがありがとうございました。



【久留米工業大学 2年 山本菜月（本校卒業生）】

1週間という短い期間でしたがインターンシップを通して、実際の学校現場でしか学べないことや教員の大変さ、生徒との関わり方、勉強の教え方など大学では学ぶことができないことを学びました。教員が生徒一人一人のことを考え、丁寧に指導にあたるのが大切だと思いました。楽しく充実した1週間になりました。ありがとうございました。生徒の皆さんは、これから生きていく中で色々なことがあります。進路を決めることなど自分の人生の岐路に立ちます。自分の人生は1回しかないし後戻りはできません。なので後悔しない進路を選んでほしいです。勉強はもちろんのこと部活の友達、先輩や後輩やクラスの友達、先生との関わりを大切にしてほしいと思います。中学生の今だからこそ学べることは多くあります。自分の視野を広げて広い世界の中で逞しく自分らしく生きていってください。社会に出たら中学生だった自分には戻ることはできません。中学校生活を楽しんでほしいと思います。1週間インターンシップとして活動して自分自身が成長できたと感じています。ありがとうございました。



【久留米大学 3年 日高帆乃香】

2週間本当にありがとうございました！中学校でこんな体験をさせていただける機会はあまりないので、すごく新鮮で楽しくて実習が終わってしまうのがとても寂しいです。初めは緊張でガチガチな私にみんなすごくフレンドリーに話しかけてくれて、クラス関係なくお話してくれた人もいて、みんなの対応にすごく救われました。2週間という短い間しかみんなと関わっていないけれど、やるときはやれるみんなのこれからの、私はとてもわくわくしています！今夢を持っている人も持っていない人もきっと素敵な未来が待っているはずです。その素直な心をこれからも大切に、面倒くさいことにどんどん立ち向かって行こう！そして好きなこともその分たくさんしよう！みんなを見ていて、可能性に制限なんてないのだと心の底から感じました。筑邦西中学校の良いニュースを久留米大学にいる私までぜひ届けてくれたら嬉しいです！みんなのこれからの人生にたくさんの良いことが起きますように！



【久留米大学 3年 中村 斗紀】

みなさんこんにちは。2年2組を担当していた中村です。2週間とても充実していました。今回は2年2組だけしか見られなかったのですが、印象に残った事はすごく勢いと元気がある学年だったことです。そして2年2組でよかったです。なんでもできそうで、みんな自信があるようでした。すごくエネルギッシュでした。ただ、世の中勢いだけではどうにもならないことがあります。そんな時に必要なことは「準備」です。「次のテストのための準備」、「受験のための準備」、「夢を叶えるための準備」が必要です。準備にかかる時間や、仕方、タイミングはみんなが決めていいと思います。そして、準備をしている時としてない時の心の余裕は違います。していて損はないと思います。今はこの準備をしようとしたら全部勉強になることでしょうか。連立方程式や、BTB液は20歳になっても使い所はないけれど、その問題が解けたから僕は大学にいます。目標ができた時の準備として、勉強は必要だと思います。今目標がない人でも、できた時のためにとりあえずペンを握りましょう。



【久留米大学 3年 三月田 萌】

私が心理インターンシップに来た目的は大学の講義で学んでいることがどのように活かされているのかを教育現場で観察し、肌で感じる事でした。今回の2週間の実習を経てとても多くの発見がありました。生徒との関わり方については、生徒の元来持っている性格特性だけでなく、その日の体調や人間関係の変化、睡眠時間の変化なども視野に入れて、「個」という存在に着目して観察をすることが出来ました。その日その日の体調や精神の些細な変化とそれに伴う行動の変化にも気づけるようなことも多くあり、ありがたい経験をさせていただきました。2-1の生徒を観察していると2週間という短い期間でありながら、中学生の成長する速さに驚かされることもありました。プールの授業ではクロールのタイムを3秒も短くさせることが出来ていました。筑邦西中学校の皆さんはこれから多くの事で悩むかもしれませんが、そんな時には挑み続けるだけではなく、休憩をしたり、立ち止まったりすることも大切です。皆さんの健やかな成長を祈っています。2週間ありがとうございました。

